全国大会 参加活動報告

～ 2023 夏の陣 ～

・令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会
・第47回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会
・第5回 日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)
・第38回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

令和５年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会　視察レポート

兵庫県　大槻　隼人

参加大会：令和５年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会
参加期間：令和５年７月 28 日(金)から令和５年７月 31 日(月)
場所　　：カムイの杜公園多目的運動広場　他 旭川市内会場
宿泊先　：東横 INN 旭川駅東口
備考　　：兵庫県高体連研修審判員として参加

目次　　：１．担当試合振り返り
　　２．試合観戦をして
　　３．研修会
　　４．終わりに

１．担当試合振り返り

① 令和４年７月 29 日(土)9 時 30 分キックオフ　１回戦
会場：カムイの杜公園多目的運動広場Ａ
対戦：西原(沖縄県代表) VS 帝京大可児(岐阜県代表)
割当：岡田太一 氏　　(主審、神奈川県、２級)
　　川田昇太 氏　　(副審１、静岡県、２級)
　　大槻隼人　　(副審２、兵庫県、２級)
　　高平聡太郎 氏　(第４審、北海道、３級)
インストラクター：村山尚哉氏
結果：0-2(0-2、0-0)　勝利高校：帝京大可児

［副審２を担当して］

「ボールが蹴られるタイミングをしっかり捉えてオフサイドを判定する」をテーマにゲームに臨みました。そのためにも、左足を少し後ろに引き、オフサイドラインだけでなく、ボールをより意識できるような体の向き、視野の確保を意識しました。

この試合ではオフサイドの反則が２回ありましたが、ボールが蹴られるタイミングを正確に捉えてオフサイドの反則を知らせるフラグアップができました。Wait&See を意識し適切なタイミングでフラグアップもできたと思います。インストラクターの方からも

「オフサイド判定やフラグアップするタイミングが適切であった。また、オフサイドラインに細かくついていけている」という言葉を頂けました。今後も、褒めて頂いた部分は続けていきたいと思います。また、インストラクターから「(問題になる程度ではないが)タッチラインに正対していない」という指摘を頂きました。これは、上記した視野を確保しボールが蹴られるタイミングを捉えやすくするために、左足を少し後ろに引いているのが原因だと考えます。

しかし、この状態で副審１を担当すると、ベンチに必要以上に顔が見えてしまい、不満や異議などを言いやすい環境になるという指摘でした。私は、副審をしていてベンチに自分の顔がどの程度見えているかを考えたことがありませんでした。今は、体を少し開いて視野を確保していますが、首の角度や目の動きだけで同じことが出来る様に取り組んでいこうと思います。

［審判団として］

今回の試合では、主審とアイコンタクトをとれる機会が多く、タッチジャッジやインプレー、アウトオブプレーの判断を協力しながらミスなく出来ました。主審に関しても、運動量が豊富で常に良い位置を確保し判定されていたように思います。ファウルが少なくフェアなゲームの中で、唯一危険であったGKへのタックルは毅然とした態度で注意するなど、マネジメントも参考になる部分が多くありました。一方で、イエローカードの基準がゲームにマッチしていないように感じましたが、クーリングブレイクなどで主審とコミュニケーションをとり、基準を再確認できたのも良かったと思います。また、主審が出したアディショナルタイムの合図において、４審がそれに気付いておらず、主審と副審１が協力しコミュニケーションを取った事で４審の方にアディショナルタイムを伝える事が出来ました。今回他府県の方と初めて組んだ中で、それぞれの経験値、考え方の違いもあったため、相違点がありましたが、最終的には審判団で協力してゲームを運営することが出来ました。

② 令和５年７月30日(土)12時00分キックオフ　２回戦
会場：忠和公園多目的広場Ｂ
対戦：市立船橋(千葉県代表) VS 熊本大津(熊本県代表)
割当：中山友希 氏　（主審、愛知県、２級）
大戸魁 氏　（副審１、岡山県、２級）
大槻隼人　（副審２、兵庫県、２級）
葛西裕翔 氏　（第４審、北海道、２級）
インストラクター：見付和昭 氏
結果：2-2(1-0、1-2、PK8-7)　勝利高校：市立船橋

［副審 2 を担当して］

前日に助言頂いた、「フィールドに正対しつつも、首の角度でボールが蹴られるタイミングをしっかり捉える」をテーマに試合に臨みました。この試合 70 分を通して意識しながらオフサイドラインにつくことができましたが、難しいオフサイドの判定はなかった為、テーマに対しての成果は分からないままです。今後も、上記のテーマを意識しながら副審を務めていこうと思っています。

また、この試合では、主審のファウルの基準と私のファウルの基準がズレており、ファウルサポートをどこまでするか迷うことが多かったです。私が気になったファウルがあった際には、主審のポジショニング、表情を確認してファウルサポートをすべきかどうか判断するようにしました。その結果、主審を邪魔するようなファウルサポートはなく、主審を支えることができました。今回は主審の基準に合わせることでゲームの強度もタフになり魅力的なゲームになりました。しかし、主審の基準に合わせて、ゲームがコントロールを失いそうな場合、副審としてどうファウルサポートしていけばいいのか想定しておく必要があると感じています。

［審判団として］

今回の試合での主審の判定基準は、タフなプレーを求める基準でした。上半身のホールディングの反則をあまり取りませんでした。前半は選手やスタッフから声も上がるなど、後半以降、どの様なゲーム展開になるか不安を抱いていました。しかし、選手は主審の判定基準に合わせ、多少のホールディングの反則があってもプレーに集中し、悪質なホールディングをすることなくサッカーに集中していました。主審の判定基準がタフで魅力的なゲームを作り出したと思います。私が普段担当している試合では、その判定基準だと選手やスタッフにフラストレーションが溜りサッカーに集中できない状況になっていたと思います。選手やサッカーのレベルに合わせた基準の大切さ、主審としての信念の大切さを感じました。

また、給水のタイミングについては、後半 16 分に得点があり、得点したチームのみが水を飲んでいる状況でした。その際に給水を取ると一方のチームの給水時間が長くなると判断され、給水は取られませんでした。その後、18 分に給水をとりましたが、スローインをすぐスタートすればチャンスになりそうな場面であったので、選手やスタッフから不満の声があがりました。結果的には、得点があったタイミングか、チャンスにならない違うタイミングでとるべきでした。時間に拘りすぎるのではなく、臨機応変に対応する必要があると感じました。

２．試合を観戦して

① 令和５年７月29日(土)　12時00分キックオフ
対戦：佐賀東(佐賀県代表) VS 山梨学院(山梨県代表)
結果：0-1

佐賀東 対 山梨学院の試合を後半からインストラクターの相樂さんと観戦しました。一緒に観戦する中で、チームがどうやって点を取ろうとしているのか、チームのキープレイヤーは誰なのかを解説して頂きました。判定に対して声が多く出るゲームも適切なタイミングでキープレイヤーに注意しマネジメントすると、判定への声もなくなりフェアなゲームになりました。サッカーを読む力、流れを読む力の大切さを痛感する瞬間でした。

② 令和５年７月30日(日)　９時30分キックオフ
対戦：高川学園(山口県代表) VS 札幌創成(北海道②代表)
結果：4-0

この試合では、主審はマネジメントに苦慮されていました。反則の判断が遅れ、笛が遅れ不満の声が上がる。主審は更に混乱を招く、という悪循環のように見えました。不満の声に対してもうまく対応できていませんでしたが、ハーフタイムに副審や４審と情報を共有し、しなければいけないことを整理することで後半は良いゲームになったと思います。審判団全員で協力して、良いゲームを作ろうとされている姿勢が良かったと思います。また、主審が混乱を招き冷静な判断ができそうにない状態である事が外から見受けられた場合、ハーフタイムでなく、ゲーム中にできるうる事、例えば給水やアウトオブプレーで主審を助ける声かけなど考えなければいけません。

３．研修会

① 日時：令和５年７月29日(土)　18時00分から19時00分
方法：Zoom

２つのシーンについて担当した主審から報告があり、審判員で意見を出し合いました。1つ目は、「主審が決定的な得点機会の阻止で退場を命じた。退場を命じられたチームの選手が主審を囲んだ。副審は、主審を呼び協議を行った。」というシーンです。議論の点は、”副審は主審を呼ぶ必要があったのか”という点です。副審は、主審の判定に賛同していました。しかし、主審が囲まれて困っているように見えたので、主審を呼び賛同することを伝えたようです。

私の意見は、副審が主審の判定を賛同するのであれば主審を呼ぶ必要はないと思います。主審を呼ぶことで、主審は迷っていると選手やチームスタッフに感じさせます。主審に賛同であれば、主審を信じて囲む選手の対応を任せるしかないと思っています。ただし、主審が困って聞きに来ることや、副審が違う情報を持っていたら、協議が必要だと思います。

2つ目は、上記で記述した、佐賀東 対 山梨学院でのキープレイヤーへのマネジメントの重要さの共有でした。研修会でも改めて、マネジメントの重要さやタイミングの難しさを痛感しました。

② 日時：令和5年7月30日(日)　18時00分から19時00分
方法：Zoom

2つのシーンについて意見を出し合いました。1つ目は、「荒々しいプレーをする選手へのマネジメント」でした。同じ選手が、2度反則をしました。1度目は危険なプレー。これに対して主審は軽い注意でした。2度目は不用意なホールディングによる反則。しかし、この反則に対して反則を犯した選手は判定に不満の声をあげました。主審は、時間を置き、選手を別の場所へ誘導して会話をされていました。選手は納得した様子でプレーに戻りました。私は、同じ選手が繰り返し反則を行い、判定に不満も言っているので、警告を示すべきだったと考えています。しかし、見習いたい点もいくつかあります。2度目の反則の後、選手を違う場所に移動させたこと、時間を多くかけたこと、この工夫は選手を落ち着かせると同時に、他の選手や観客が反則した選手が注意を受けていることも分かりやすいです。私は、注意する際、その場で短時間にしてしまうので、違う場所で時間をかける、見習いたいと思います。

2つ目は、「DFからのロングパスに対してFWが抜け出したが、GKがペナルティアリアの外でボールをキャッチした。」というシーンです。副審がペナルティエリアの外でボールをキャッチしたことを判断しフラグアップして反則を伝えていました。審判団の協力が良かったと思います。しかし、このシーンでは大きな攻撃のチャンスを阻止したという理由で警告が示されましたが、映像ではFWがボールを触れる可能性はなく、大きな攻撃チャンスに当たらないので警告も必要ありませんでした。なかなか起きないシーンではありますが、副審がFWとGKの距離を判断し懲戒罰の判断もサポートするのが理想だと思います。

４．終わりに

２度目の全国大会は１度目に比べてより責任感をもって臨むことができました。今回も様々な地域の審判員と交流させて頂き、多くの刺激を頂きました。特に、私より若い審判員がモチベーション高く積極的に議論に関わり、審判員として良いパフォーマンスをされているのを見て、「自分も負けてたまるか」という刺激を受けました。

また、北海道審判部、現地の高校生にはピッチの設営や細やかな点までサポートして頂きました。お陰様で私たちも活動しやすく、審判業務に集中できたと思います。ありがとうございました。

高校年代の最高峰のレベル、スピード感を体感できました。審判としてだけでなく、高校教員、サッカー部顧問としてもこの経験を活かしていきたいと思います。

『令和５年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会』参加報告

轟かせ
魂の鼓動
北の大地へ 大空へ

関西サッカー協会 所属
兵庫県サッカー協会 所属
２級審判員 亀田 詩真

⑴ はじめに

この度、7 月 28 日(金)～7 月 31 日(月)まで北海道・旭川市で行われました【令和５年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会】に兵庫県高体連研修審判員として、大槻氏と共に参加させて頂きました。

この大会に参加するにあたりまして、日頃よりお世話になっております、関西サッカー協会の皆様、兵庫県サッカー協会の皆様、兵庫県高体連の皆様、姫路サッカー協会の皆様に感謝しております。ありがとうございます。

以下、参加報告となります。

参加大会：【令和５年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会】
～翔び立て若き翼 北海道総体 2023～
参加期間：2023 年 7 月 28 日(金)～7 月 31 日(月)
場所　　：北海道旭川市
宿泊先　：東横 INN 旭川駅東口
試合会場：旭川市花咲陸上球技場 他
備考　　：兵庫県高体連研修審判員として参加

⑵ 大会事前研修会

事前研修会については２回開催されました。(2 回目は任意参加)

第 1 回【大会概要・事務連絡】
対象：JFA 派遣審判員(1 級・女子 1 級・2 級)・研修審判員・JFA 派遣インストラクター

今大会は新競技規則である「サッカー競技規則 2023/24」で開催されるということで、競技規則の改正について JFA の泉氏よりご説明がありました。
また、炎天下の中での試合が想定されるということで「飲水タイム」、「クーリングブレイク」について再度確認があり、審判員の水分補給についてもパフォーマンスの維持、体調管理の面で必ず飲水するようにと注意喚起がありました。

大会テーマ
【Players'management のための表現力を高める】

大会テーマとして上記が挙げられました。各々の考える"Players'management"とは何なのかという泉氏よりご質問がありました。私は、競技者との協調と考えています。

最後に

「今大会でインターハイの持ち回りでの開催が最後となる。今大会に限ったことではなく、過去の大会でもそうであったが、開催地である地元の方々は大会に向けて長い年月をかけておもてなしの心を持って準備に励んで下さっています。そこで私達が地元の方々の想いに応えるためにも大会の成功という一つの大きな目標を達成させなければならない。感謝の気持ちを常に持って大会に臨んで欲しい。また、この大会で出会う各地域の審判員やインストラクター、1 級審判員と沢山交流をして 1 つでも多くのことを各地域へ持ち帰り、還元して頂きたい。各地域を代表して来ていることに自覚と責任を持って北海道の地で再び会えることを楽しみにしています。」と泉氏よりお言葉を頂きました。

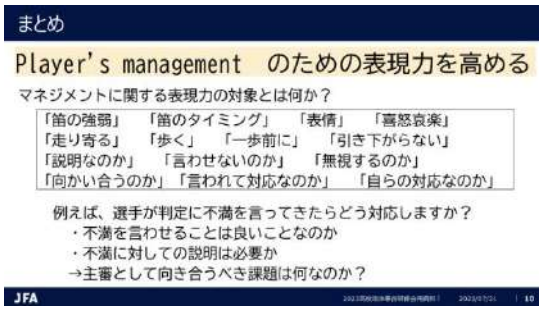
第２回【テクニカル】
対象：JFA 派遣審判員(2 級)・JFA 派遣インストラクター
　　（※1 級・女子 1 級・研修審判員は任意）

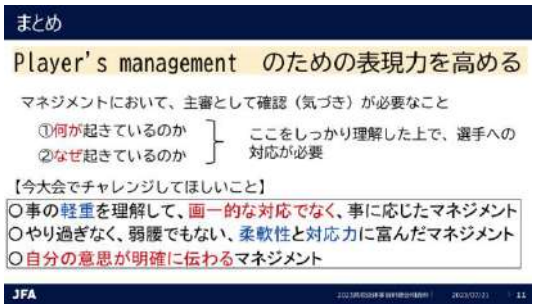
今回の研修会は任意参加となっていましたが、少しでも多くのことを学ぶために参加させて頂きました。

事前のアンケートにて映像を見て、そのシーンに対応や自分ならどうするかといった大会テーマであるマネジメントの観点にフォーカスを当てた映像研修となりました。
４人ごとのグループで映像ディスカッションをして最後に全体共有をする流れとなりました。

様々なマネジメントの関する映像があり、グループでディスカッションをしましたが、一番感じたことは、今まで関西・兵庫で出てこないような観点からの意見が出たりすることでした。私のグループは北信越、関東、北海道と全員が違う地域の審判員のグループでした。それぞれ“地域の色”があり、「そんな観点、考え方があったのか！」と学べました。

まとめとして、インストラクターの見付氏より各個人の審判員としての Player’s managemen とは何なのか、またそれをどのように表現するのかで表現力が試される。皆さんは各地域を代表して大会に参加する審判員として、普段の地域で表現している Player’s management を披露して欲しい。そして最大の目標である大会の成功に向かっていこう。とありました。





⑶ 担当試合報告

① Match No18　2023 年 7 月 29 日(土) 12:00 キックオフ
会場：旭川実業高等学校
対戦カード：宮崎日大（宮崎）vs 関西大学第一（大阪２）
審判団：R 大戸 魁氏（中国・強化）
　　A1 亀田 詩真
　　A2 山口 麗弥氏（北海道・地域）
　　4th 田口 平蔵氏（北海道・地域）
インストラクター：安元 利充氏（神奈川）

初めての全国大会で前日から緊張していました。また A1 ということでベンチを背負うことの責任を感じながら試合へと臨みました。全国大会ということで今まで担当させて頂いた試合とはまた違った雰囲気を感じました。
この試合の展開としましては、2 点を宮崎日大が前半に先制しましたが、後半に関大高が 2 点を追いつき PK にて勝利したというとても白熱した試合となりました。
この試合で大きなトピックスとなったのが、関大高の GK による DOGSO です。
詳しくはその日の夜の研修でも取り上げられたのでそちらに記載しております。初めての全国大会で悔しい経験をしました。

② Match No33　2023 年 7 月 30 日(日) 12:00 キックオフ
会場：忠和公園多目的広場 A
対戦カード：岡山学芸館（岡山）vs 山梨学院（山梨）
審判団：R 山田 昌輝氏（関西・強化）
　　A1 大泉 拓氏（関東・強化）
　　A2 亀田 詩真
　　4th 田口 平蔵氏（北海道・地域）
インストラクター：河合 英治氏（千葉）

前日のトピックスから「もし自分が主審であったら副審にどのような立ち振る舞いをして欲しいのか」について自己分析、実際に大会に参加している色々な審判員にご意見を頂き、2 日目の割当へと臨みました。主審が関西の方で、一度組んだことがあるので前日のことなど深い打ち合わせをすることができました。
試合の展開としましても特に大きな問題もなく無事に終了することができました。
振り返りで旗の使い方が綺麗と言って頂けました。これからも継続していきたいと思います。

⑷ 研修会

毎日 18：00 より 1 時間程度、ZOOM を用いてその日に開催された試合の中からインストラクター陣が協議をして今大会のテーマである「マネジメント」を題材としたシーンについてディスカッション形式で研修会を行なった。

1 日目

この日のシーンは、担当試合報告でも記載しました私の担当した試合の DOGSO のシーンについてでした。

後半 14 分、2―2 の場面で、宮崎日大のクリアを関大高の DF が処理を誤って GK へのバックパスが弱くなった。宮崎日大の FW と関大高の GK がボールへと向かい、FW の方が GK より早くボールに触れた。そのままの勢いで GK は FW に対して不用意なジャンピングアットを犯した。このシーンは GK が飛び出しており、ゴールは空いていた。また、DOGSO の 4 要件はすべて満たしたとして主審はレッドカードを提示し退場を命じた。

映像ではそもそも先に触ったのは GK ではないのか、ボールがバウンドしている点からコントールできる可能性はないから SPA ではないのか、と意見が分かれましたがあくまで今回のテーマが「マネジメント」であるため、DOGSO と仮定してその後の現場での審判団の対応についてディスカッションを行なった。

まず第一に関大高の DF が処理を誤ったために予想外なことが起こり、争点から約 50m 離された。その後、トップスピードで事象を見に行ったために笛が遅れた。レッドカードを提示するのも遅かった。両チームの競技者に囲まれる。（この時副審 1 の私からは主審が見えなくなるぐらい 360°囲まれていた。）副審 1 の私が主審を呼び、協議して GK を退場させて再開をした。（ファウルの判定をしてから約 5 分かかりました。）

この時に中では、関大高の競技者は「副審に確認して欲しい。」と言っていました。また関大高のベンチを背負っており、ベンチも同じことを言って来ました。この時に主審は中で「判定は変えない。俺が決めたから。」と競技者には言っていたみたいです。ただ、私としては主審が決め切っているようには見えず、囲まれて見えなくなってしまう点や GK が素直に退場していかない点などから主審が迷っていると勘違いしてしまいました。再開までに時間がかかっていたこと、主審が迷っていると勘違いしてしまったこと、周りの納得感、これらのことを考えた結果、私は主審を呼びましたがそれが果たして「マネジメント」の観点で適切であったのか、という議論となりました。

インストラクターの相樂氏からは「やはり主審が中でマネジメントをしているシーンでその場を離れなければならない。主審の権威を落としかねない対応であった。」と解説を頂きました。キーとなったのは、

【副審や 4 th は主審がどうしたら試合をコントロールしやすくなるのか】

ただ、主審としても他に対応の仕方はなかったのかというのも同時に議論となりました。例えば、カードを提示してからニュートラルゾーンに逃げるであったり、囲まれないように強くジェスチャーをするなどが出ました。

2 日目

私の会場とは別の会場での事象が取り上げられました。

事象としましては、「同じ競技者が 4 回ファウルを犯している状況で、マネジメントをしてファウルを無くさないといけなかったのか」というシーンでした。また、その競技者はファウルの度に判定に対して不満を露わにしていた。それに対しても異議としてカードを提示するのか、どこかのタイミングでコミュニケーションは取れなかったのか、についてディスカッションをしました。

1 回目のファウルがスピードはそこまで無かったが、遅れたジャンピングアットであったため、そのタイミングでマネジメントをするべきであったという話になりました。現場では、確かに強く長い笛を吹いていますが、競技者に逃げられているように映像には映っていました。

インストラクターの梅本氏からは「マネジメント」をする上で一番大切なこととしては、

【その場を完結させてしまわないといけないこと】

と解説を頂きました。その後の試合に引きずらせてはならない。引きずるということは、その後の報復であったり、更に意図の悪いファウルに繋がってしまう。最悪の場合はサッカーではない行為（暴力、暴言など）に発展してしまうかもしれないということでした。

⑸ まとめ

今回初めて全国大会に派遣して頂いて、全国大会特有の独特な雰囲気を経験して参りました。チームが勝利を目指して闘っている裏で、選手を後押ししようと全力で応援をしている観客の皆様や、選手や私達審判団が気持ち良く試合に臨めるように長い年月をかけて準備、運営をして下さった地元旭川市の皆様、色々な方々が「大会の成功」という最大の目標に向かって必死に取り組んでいて、改めて当たり前に審判を出来ていることに感謝しなければならないと思いました。

また、全国から様々な色を持った審判員が集結して試合を担当させて頂きましたが、やはり各地域によって全くレフェリングが違いました。その中で事前研修でも泉氏が仰っていたように、何かの運でこのメンバーが旭川の地に集まったので色々な地域の方と交流して自分にない色を収穫して地元へと帰って還元して欲しいということで、色々な地域の審判員と交流をさせて頂きました。

個人的には U-22 枠で同年代の審判員がインターハイの舞台で笛を吹いていてとてもいい刺激となりました。初めての全国大会の舞台に立つことが出来ましたが、やはりこの舞台で笛を吹きたい。そう強く思いました。次はこの舞台に主審として戻って来れるようになりたいです。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい大会へと推薦して頂きました、兵庫県サッカー協会、兵庫県高体連の皆様、大会期間中にお世話になりました旭川市の皆様、心より感謝申し上げます。

今回の研修で学んだことを関西・兵庫・姫路にて還元して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

第 47 回　日本クラブユースサッカー選手権大会
参加報告

兵庫県　小林顕太

1.　はじめに

この度、2023 年 7 月 23 日より、群馬県で開催されました「第 47 回日本クラブユースサッカー選手権大会」に参加させていただきましたので、ご報告いたします。

今回の研修会に参加するにあたって、推薦いただきました関西サッカー協会・兵庫県サッカー協会の皆様、大会期間中にお世話になりましたすべての皆様に感謝申し上げます。

2.　研修会概要

大会名称：第 47 回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会
開催期間：2023 年 7 月 23 日～8 月 2 日
開催会場：群馬県内各サッカー場
関西の参加審判員
福吉海偉氏、井城直人氏、木村翔太氏、植出泰地氏、森下光稀氏
研修会テーマ：Players' management のための表現力を高める

3.　事前研修会

大会開催前に 2 日間、各 90 分間で事前研修会に参加しました。

・第 1 回（7 月 12 日）：大会概要・競技規則の改正などについての説明

全体の研修会終了後に JFA の名木氏より副審として参加する U22 審判に副審の役割・副審に求められているもの・基本的に見ておくポイントなどについて講義していただきました。

・第 2 回（7 月 15 日）：映像を見てのグループディスカッション

「FK マネジメント」・「対角線式審判法」について映像を用いて、グループディスカッションを行いました。

4.　担当試合

・7 月 23 日（日）　8:45　大渡緑地河川敷グラウンド
V・ファーレン長崎 U-18　VS　ヴァンフォーレ甲府 U-18
アセッサー：新井智也氏

主審：清水裕貴氏（北信越 RAC)、副審 1：小林顯太、
副審 2：眞尾龍氏（関東 2 級)、第 4 審：篠崎三男氏（群馬県 2 級）
　この試合では、副審 1 を担当させていただきました。試合会場が、目安となる対象物がなく、観客が選手と同じレベルにいてラインキープが難しかったです。試合中に難しい判断を求められるシーンはほとんどありませんでしたが、PA 内外の判定でハーフウェーライン側に明らかに動くことで、主審を援助することができました。試合後に新井氏から、副審から近い距離のファールサポートは判定の説得力を増すためにも、タイミングよくシグナルした方が良いとアドバイスいただきました。

[全体の振り返りミーティング]
　大会 1 日目で起こったシーンの動画を使ってのグループディスカッションを行いました。「頭部負傷の対応」・「オフサイドの笛・フラッグアップのタイミング」・「DOGSO のアドバンテージ」・「警告となるタックルへのアドバンテージ」これらの 4 つのシーンを題材としてディスカッションしました。また、競技者の正しい用具の着用（くるぶしソックス・ソックスが下がっている等）や kick off の時間の管理（kick off の遅れ）について MCM で両チームに協力をお願いするなどで大会に参加する審判チームとして対応することなどを確認しました。

・7 月 24 日（月） 8:45　コーエイ前橋フットボールセンターC
北海道コンサドーレ札幌 U-18　VS　ブラウブリッツ秋田 U-18
アセッサー：山西博文氏
主審：佐藤奨真氏（九州 RAC)、副審 1：小林顯太
副審 2：小崎一心（東海 U-22)、第 4 審：新井恵子氏（群馬県 2 級）
　この試合でも、副審 1 を担当させていただきました。この試合では、ベンチ前の際どいタッチジャッジが求められる場面で差し違えるシーンがありました。正しいジャッジのために、R とのアイコンタクトや際どい判定が求められる場面ではシグナルを遅らせるなどを改善する必要があると感じました。試合後に山西氏から、ボールインプレー・アウトオブプレーが際どいインプレーの場面で、選手やベンチにインプレーであることを伝えるシグナルなどをすれば良いとアドバイスいただきました。

[全体の振り返りミーティング]
　大会 2 日目に起こった「PA 内で DOGSO か SPA か・守備側競技者がボールに向かったかどうか」という難しいシーンでディスカッションを行いました。グループ内でも意見が分かれるようなシーンでした。このシーンから、2023/24 サッカー競技規則の改正や DOGSO について理解を深めることができました。また、今回の研修会のテーマである「Players' management のための表現力を高める」について J リーグのシーンを使って、講義していただきました。その中で、「自分の個性（ストロングポイント）を理解すること」・「演じること」・「間を取る（選

手との距離・時間的なもの)」を意識し、試合中の「気づき」を大切にしながら、「柔軟性、対応力のあるマネジメント」・「やり過ぎず、弱腰にならないマネジメント」を目指していく必要があるとわかりました。

・7 月 26 日（水） 8:45　前橋総合運動公園　群馬電光陸上競技・サッカー場
名古屋グランパス U-18　VS　横浜 F・マリノスユース
アセッサー：山西博文氏
主審：本郷行秀氏（北信越 2 級強化)、副審 1：高須賀哲平（北海道 RAC）
副審 2：小林顯太、第 4 審：鈴木幸夫氏（群馬県 2 級）
　この試合では、副審 2 を担当させていただきました。当日は気温が 40℃を超え、ピッチレベルの WBGT が 31℃を超えたため、前後半ともにクーリングブレイクを採用して試合を行いました。かなりタイトなオフサイドの判定がありました。その際に、正しいポジショニングでプレーを監視できたので、正しく判定することができました。しかし、A2 サイドの得点の直前にファールの可能性があるプレーが起こりました。現場では、R と A2 でアイコンタクトを取り、ゴールを認めました。しかし、映像を確認すると後方から相手競技者を不用意に押しているように見えました。このシーンから、A2 からなぜファールと判断できなかったのか。もし、現場でファールと判断できていた場合の R への伝え方やコミュニケーションの方法などを学ぶ事ができました。

5.　大会全体を振り返って

　今回、2 度目の全国大会への参加でした。前回の研修会は、初めての全国大会への緊張感やコロナ等の関係で充分に交流することができませんでした。しかし今大会では、少し気持ちに余裕ができ、コロナの規制も緩和され、全国から集まった審判員やアセッサーの方と交流することができました。判定について意見を交換したりする中で、自分では思いつかなかった考え方や事象の捉え方に触れ、多くの事を学ぶことができました。また、関西以外の地域の審判員・アセッサーとの情報交換の中で、各地域の特徴や審判の事だけでなく、就職のことなども聞くことができ、多くの刺激と学びを得ました。
　今大会は、U-22 審判員として副審で参加させていただきました。今回の研修会で、基礎的な、「副審という役割」・「基本的の見ておくポイント（DF ラインを軸にして FW・サイド MF・ボール・主審）や見るタイミング（リズム)」・「オフサイド判定時のポジショニングの重要性」などを学びました。副審に求められている「わかりやすいジャッジ」・「主審を援助する」ことを意識してチャレンジしました。様々な課題・改善点が出ましたが、オフサイドの正しい見極めや wait & see に関して、正しく判定することができました。この部分はストロングポイントとして今後も伸ばしていきます。そして、次は主審として全国の舞台へ参加したいと強く思いました。そのために、関西カテゴリーに入り、成長した姿で戻れるように努力しま

す。

今大会に参加して得た経験を財産にして、今後の審判活動に真摯に取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせていただいた関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会、北播磨サッカー協会の皆様に感謝申し上げます。

以上

第 47 回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会 大会参加報告

２級審判員
木村翔太

【はじめに】

はじめに、大会期間中お世話になりました大会関係者の皆様に感謝申し上げます。 また、普段よりご指導いただいております関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会、明石サッカー協会、ご指導いただいている皆様に感謝申し上げます。
以下、大会参加の報告をさせていただきます。

【大会と参加審判員】

大 会 名 ：第 47 回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会
開催日時 ：2023 年 7 月 22 日～27 日
場　　所 ：群馬県各サッカー会場
参 加 者 ： １級審判員(ラウンド 16 より)
各地域強化２級審判員
レフェリーアカデミー4 期生
U-22 審判員

【大会テーマ】----------

Player’s Management のための表現力を高める

【事前研修会】----------

■ 第 1 回事前研修会

・旅券申請の説明
・大会要項についての確認
・諸連絡

■第 2 回事前研修会

・ポジショニング

⇒対角線式審判法を意識する

「対角線式審判法のメリットは何か」を再認識

主審としてこの状況においてどの位置にポジションを取るべきかグループでディスカッションを行いました。

・フリーキックマネジメント

映像①

ファウルが起こり、フリーキックが行われるポイントの周辺に相手競技者が複数いる状況。

⇒考慮点をディスカッション

・クイックリスタート(再開できるのか? 利益となるのか?)

・主審のポジション　(どの位置にいると守備側に妨害させないか)

映像②

フリーキックのポイントから 9.15m がペナルティーエリア付近となるフリーキックのシーン。

⇒考慮点をディスカッション

・壁の位置がペナルティーエリア内 or 外を明確にする

・誰が監視するのか

【大会期間スケジュール】

7 月 22 日(土)　前日集合

7 月 23 日(日)　7：00　各会場へと移動
8：45　キックオフ
試合終了後、振り返り
15：30　振り返りミーティング

7 月 24 日(月)　7：00　各会場へと移動
8：45　キックオフ
試合終了後、振り返り
15：30　振り返りミーティング

7 月 25 日(火)　休息日

7 月 26 日(水)　　7：00　各会場へと移動
　　8：45　キックオフ
　　試合終了後、振り返り
　　15：30　振り返りミーティング

7 月 27 日(木)　　7：00　各会場へと移動
　　8：45　キックオフ
　　試合終了後、振り返り

大会期間中ミーティング

　その日に起こった事象をもとにグループディスカッションを行いました。また、3 日目には、マネジメントについて話し合いました。「性格は変えられないけれど、行動は変えられる」という言葉のように、審判員としてどう演じて試合をマネジメントしていくのかが大事だと学びました。

7 月 23 日(日)　グループステージ第 1 日

名古屋グランパスU-18 ー ジェフユナイテッド千葉U-18

R ：鈴木寿士 氏（地域強化 2 級 / 九州）　A1：木村翔太（RAC / 関西）
4th：朝倉大翔 氏（関東派遣）　A2 ：山崎匠悟 氏（U-22 / 関東）
INS:正木修一 氏

　副審 1 を担当致しました。特に大きな問題もなく試合を終えることができました。この試合では表現力を意識して試合を担当致しました。特に、副審がよく見える位置での際どいタッチジャッジの見極めの際に、旗の上げるタイミング・旗の上げ方で自信のある姿を表現致しました。

7 月 24 日(月)　グループステージ第 2 日

名古屋グランパスU-18 ー ロアッソ熊本

R ：木村翔太（RAC / 関西）　A1 ：福島秀人 氏（地域強化 2 級 / 関東）
4th：小尾航平 氏（関東派遣）　A2 ：山口孝太 氏（U-22 / 四国）
INS： 太田潔 氏

課題点

「押さえる反則や競り合いの際に押したりするファウルを、もっとシンプルにファウルとした方が良いのではないか。」とアドバイスを頂きました。そういった点で、競技者とのギャップが生まれ、フラストレーションに変わっているのではないかと分析しました。

またこの試合では、ゴール前で押さえたかどうかのシーンがありました。現場では影響度合いが少ないことと、ボールに対してチャレンジできる可能性が少ないことからノーファウルと判断しました。映像を見返し、自分自身の判定に対しては合っていると判断をしています。その際に、明確にノーファウルだと示すことで主審の意志を伝えることが必要だと感じました。

良かった点

・動き出しの速さ
・中盤での走り出し
・ポジショニング
・フィジカル

7 月 26 日(水)　グループステージ第 3 日

栃木 SC ー アルビレックス新潟

R　：木村翔太（RAC / 関西）　A1 ：阿部聖汰 氏（RAC / 東北）
4th：伊藤佑斗 氏（関東派遣）　A2 ：デオリベイラ・ギレルメ氏（U-22 / 東海）
INS：泉弘紀 氏

課題点

判定基準が課題となりました。特に、アドバンテージを採用した際の事象について、「選手の反応でシグナルしていないか。」との指摘を頂きました。また、”どこで試合を掴むか”という話もしました。その中で、チームスタッフからみてどんなことをすると「安心」に繋がるかということが重要であり、それは判定からどのようなメッセージを出すのか、という「表現力」が必要だと学びました。

良かった点

・中盤の動き出し
・主導権を取ること
・得点に繋がったアドバンテージの適用

7 月 27 日(木)　ラウンド 16
横浜 F・マリノス　－　横浜 FC
R　：佐藤奨真 氏（RAC / 九州）　　A1：木村翔太　（RAC / 関西）
4th：鈴木幸夫 氏（関東派遣）　　A2：藤本歩 氏（RAC / 中国）
INS：野田祐樹 氏

副審を担当致しました。この試合では、タッチジャッジのシグナルに関して反省点がありました。副審の私は確実にタッチラインを割ったと確認したものの、どちらの再開か分からず旗を下げたまま主審の判断を仰ぎました。しかし、主審はタッチラインを割ったのか分かっておらず、シグナルを出していませんでした。改善点としては、まずアウトオブプレーになったことを主審に知らせるために旗を上げるべきでした。この反省から、基礎に忠実に行うことの大切さを改めて学びました。

【大会を振り返って】

昨年副審として参加させていただき「主審として戻ってきたい。」と思っていた大会に、翌年主審として参加することができ、とてもうれしい気持ちと緊張感をもって参加させていただきました。主審としては、今まで指摘されてこなかったようなことを指摘していただくことができました。また、副審では基本にもう一度振り返るきっかけとなりました。基礎に忠実に行うことを改めて心がけていきたいと思います。この度はこのような素晴らしい大会に参加させていただき、ありがとうございました。様々な審判員・インストラクター・大会関係者とお話しさせて頂く中で、様々な学びと気づきを得ることができました。この経験をしっかりと自分の身に染みこませて、関西で表現していきたいと思います。そして、微力ではありますが関西に還元できるよう頑張って参ります。
今後とも、何卒ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

第 47 回 日本クラブユース選手権(U-18)大会　参加レポート

2 級審判員　福吉海偉

参加大会: 第 47 回 日本クラブユース選手権(U-18)大会　グループステージ
参加期間: 令和 5 年 7 月 23 日～7 月 26 日 グループステージ
大会テーマ：Player's Management のための表現力を高める
場所 ： 群馬県、各会場
宿泊先 ： グレースイン前橋
参加審判員（関西）：木村翔太氏、小林顯太氏（共に兵庫）、井城直人氏、
森下光稀氏（共に大阪）、植出泰地氏（京都）、福吉海偉（兵庫）計 6 名
備考　：関西サッカー協会より推薦を頂き、2 級強化審判員として参加

〈はじめに〉

7 月 23 日～7 月 26 日まで開催されました、第 47 回日本クラブユース選手権（U-18）大会のグループステージに参加させて頂きました。大会関係者ならびにお世話になりました関東サッカー協会・群馬県サッカー協会の皆様、推薦していただいた関西サッカー協会、私をここまで育ててくださった兵庫県サッカー協会の方々に感謝申し上げます。

＜目次＞

１）　事前研修
２）　担当試合振り返り
３）　研修会
４）　最後に

1）事前研修

・第 1 回事前研修（7/12）

第 1 回事前研修では、大会の競技会規定、事務連絡を中心とした内容の研修会を受けさせて頂きました。また、今大会では 2023/24 年の新競技規則で大会を行う為、競技規則の改正された箇所の復習を行いました。

・第 2 回事前研修(7/19)

第 2 回事前研修では、FK マネジメントとポジショニングの研修を行いました。FK マネジメントでは、2 つの映像を見てグループディスカッションを行いました。グループディスカッションの内容は、「笛を吹いてからどのような気づきが大切か。」というものでした。まず、攻撃側競技者の選択肢（クイックの保証の有無）次に DF のコントロール（近寄らせない為のマネジメント）、壁のコントロール（9.15m 以上離す）これらを意識することが大事であると学びました。また、副審の前での FK では役割を分担する事により円滑にプレーの再開を行うことができるので、打ち合わせで役割を整理しておく必要があると感じました。

ポジショニングでは、下図を見てどこの番号にポジショニングを取るかのグループディスカッションを行いました。グループでは、②の位置から監視を行い、クロスが上がった際に④の方にずれていく動きが良いのではないかという意見がありました。他には、⑤から全体像を見ながら流れに応じて移動するのが良いという意見もありました。結論としては、レフェリーサイドに広がって監視するために④の位置にポジショニングし、展開に合わせた動きを行う方が良いのではないだろうかという事になりました。また、⑤だと最初の展開から見ると距離があり主審から見た時にブラインドになる可能性があることから④という結論になりました。

2）担当試合を振り返って

①令和 5 年 7 月 23 日（日）　8 時 45 分 kickoff
会場：中央ビジネス石関公園サッカー場
対戦：グループステージ C
鹿島アントラーズユース VS ファジアーノ岡山 U-18
割当：主審　福吉海偉
副審 1 高須賀哲平氏（北海道）
副審 2 デオリベイラ・ギレルメ氏（東海）
第 4 の審判員　淺岡宏考氏（関東）
インストラクター：　木村滋氏（JFA）

【主審を振り返って】

この試合では、今大会のテーマである Player's Management の中でもゲームコントロールを意識して取り組みました。特に意図の悪いファウルが起きた時の時間の使い方や立ち振る舞いなどで当該選手だけでなく、試合を通して全体に伝わるゲームコントロールを意識的に行いました。

試合を通して良かったところは、選手とコミュニケーションをとる事でゲームの展開を落ち着かせることができました。特に意図の悪いファウルが起きた際に少し時間を使い、コミュニケーションを取った事でその選手がファウルをせずにプレーを行ってくれました。

続いて課題としては、プレーの再開が遅い時のマネジメントが改善点です。ファジアーノ岡山がリードをしている際に、スローインやゴールキックなどの再開が遅く、鹿島アントラーズの選手がフラストレーションを溜める事になってしまいました。全体に聞こえるように声をかけるように意識しましたが、スムーズな再開が出来ませんでした。

課題を改善するには、チームとしてスムーズな再開を心がけてもらうように、キャプテンや協力的な選手とコミュニケーションをとることが挙げられます。また、ゴールキーパーに対しては、ゴールキックの際にゴールキーパーの元まで行き早く再開してもらえるように促すことが重要だと感じました。

写真：「Green Card チャンネル」より

【反省会内容】

反省会では、試合を通してコミュニケーションの取り方を褒めて頂きました。特にオフサイドを取り消した際もベンチに伝わるように大きい声で伝えた事や選手に注意する際に時間をかけた事で、「周囲に今のプレーは良くないと分かってもらえていた。」と言って頂けました。

課題としては、FK マネジメント、カウンターの際のアクセラレーション（加速）が挙げられました。FK マネジメントでは、DF が近寄ってきてから下がらせているため、クイックでの再開を防がれているところが課題となりました。改善をするために近寄られないためのポジショニング・声の掛け方が必要だと感じました。例えば、再開位置に寄ろうとしている選手の視野に入り、毅然とした表情で「寄らないでください、下がりましょう。」などと声を掛ける事が考えられます。

カウンターの際のアクセラレーションでは、「攻守が切り替わる瞬間にもっと力強さが欲しい。」と言って頂きました。また、この試合では「最終的には良いところにいるが、そこにもう 1 つ早くたどり着いて角度を取りながら判定する事が 1 級になるために必要な事である。」と教えて頂けました。

② 令和 5 年 7 月 24 日（月）　8 時 45 分 kickoff

会場：玉村町北部公園サッカー場

対戦：グループステージ F

徳島ヴォルティスユース VS 大分トリニータ U-18

割当：主審　岩本駿士氏（北海道）

副審 1 福吉海偉

副審 2 デオリベイラ・ギレルメ氏（東海）

第 4 の審判員　大塚将治氏（群馬）

インストラクター：　新井智也氏（JFA）

【副審を振り返って】

この試合では、副審としてその瞬間に主審が何を求めているかを理解し、サポートすることを意識しました。例えば、オフサイドのシーンでのフラッグアップのタイミングや主審が見えづらいタッチジャッジ、ファウルのサポートなどを意識的に行いました。

試合を通して良かったところは、アシスタントサイドのタッチジャッジを自信持ってサポートするができ、スムーズな再開を行うことができました。また、フラッグアップのタイミングも遅れることなく、主審とすぐに目が合い、スムーズに再開できました。

課題としては、オフサイドの判定の際に２回ほどラインキープにズレが生じてしまい、判定に迷いが出てしまいました。結果的にオフサイドが成立しなかったため、試合には影響しませんでしたが、この１つ１つの判定にこだわりを持たないといけないと感じました。ラインキープを的確にするためにも、タッチラインに対して正対し、極力サイドステップを行うように意識することが改善点と感じました。

写真：「Green Card チャンネル」より

【反省会内容】

反省会では、最初の大分トリニータのベンチ前での際どいタッチジャッジを力強くサポートできたことにより、ベンチからの信頼を勝ち取ることができたと褒めて頂きました。また、オフサイドのフラッグアップのタイミングのところで主審と意思疎通でき、良いタイミングで上がっていたと言って頂けました。

主審に対しては、CK か GK の判定をする際にポジションが遠くなってしまい微妙な判定の際の説得力が薄くなってしまっていたこと、チャンスに繋がらない所でのアドバンテージが多々あったことを話されていました。

ポジショニングのところでは、レフェリーサイドに早い段階で広がれているが、中に入るタイミングが早いため CK の判定の説得力が欠けるポジションになってしまっているというものでした。改善点としてレフェリーサイドに広がってから角度をつけながら、縦への動きを意識してみようという事でした。

アドバンテージのところでは、最終ライン付近の反則で即効性のないものにアドバンテージをかけていたというものでした。改善点として常に展開を予測し、広い視野の確保を行うことが有効的なアドバンテージをするために必要であるということでした。

③令和 5 年 7 月 26 日（水）　8 時 45 分 kickoff
会場：アースケア敷島サッカー・ラグビー場
対戦：グループステージ A
大宮アルディージャ U-18VS サガン鳥栖 U-18
割当：主審　福吉海偉
副審 1 岩本駿士氏（北海道）
副審 2 小崎一心氏（東海）
第 4 の審判員　小竹宏幸氏（関東）
インストラクター：　野田祐樹氏（JFA）

【主審を振り返って】

この試合では、前回の反省会で課題となった FK マネジメントとカウンター時のアクセラレーション（加速）を意識しました。また、タイムマネジメントとして、時間の使い方や円滑なゲームコントロールをより意識的に行いました。

試合を通して良かったところは、判定に対して声は幾度が上がりましたが、選手とコミュニケーションを取れたことで、納得してプレーに集中してもらえたことです。課題としてあげていた FK マネジメントでは、事前に守備側競技者が近寄らないように背番号を言い、その選手の視野に入りながら下がるように伝え、クイックの可能性が無い時には、先に試合を止めて歩測を行うなど先手を取ることができました。また、カウンター時のアクセラレーションでは、まだ課題は残りますが先に展開を予測して、動き始めることでより展開について行くことができました。タイムマネジメントは、選手のテンションが高くなっている際には、少し時間をかけたマネジメントを行い、落ち着いたゲーム展開を作ることができました。

写真：「Green Card チャンネル」より

課題としては、前半のカウンター時のアクセラレーションのところで、意識をするあまり角度が悪く、縦関係になってしまいました。特に GK と FW の 1 対 1 で角度が悪くなってしまったことが一番の課題と感じました。改善点として、展開を予測して先に動くことはできているのでもう少し余裕をもって幅のある動きをすることができると良いと感じました。

また、副審との協力の点においては、私が逆だと感じた時に判定を変える際に副審との差異が生まれ、副審としてサポートをしづらい環境を作ってしまいました。改善点として、タイミングが重要であると感じました。今回は、副審がシグナルを示してからすぐに笛を吹いて判定を変えてしまいました。その為、副審としたら「間違えてしまった。」となり、サポートをする事に躊躇してしまっていたので、少し間を作り落ち着いた表情で判定を変える事で副審もサポートしやすい環境を作れるようになるのではないかと感じました。

【反省会内容】

反省会では、「前半は動きの幅が狭く、争点と縦関係になることがあったが、後半は動きの幅が広くなり良い動きになったこと。」を言って頂きました。また、大宮アルディージャが 2 点負けているところから 1 点取った際に、FW と GK がボールの取り合いで対立が起きそうになりました。そのシーンでは、「もっと選手の心理を読み取ろう。」というアドバイス頂きました。

リードをキープしたいサガン鳥栖と追いつきたい大宮アルディージャの心理を読み取ることをより意識することで、行動が変わるようになりトラブルなどを未然に防ぐ事ができるとアドバイスをもらいました。

3）研修会

7/23 第 1 回振り返りミーティング

この研修会では、実際に試合中に起きた 4 つの事象を見て 4 グループに分かれて、1 グループ 1 つの事象をテーマにグループディスカッションを行い、発表を行いました。

まず、「事象を見て・何を感じたのか・どのような情報があるのか・審判団としてどうすべきであったのか。」などに分けてディスカッションを行いました。

私のグループでは、川崎フロンターレ VS ヴィッセル神戸の後半 29 分のシーンがピックアップされ、事象としては、川崎フロンターレの選手が裏へ抜け出した直後にヴィッセル神戸の選手が後方からスライディングタックルを行い、川崎フロンターレの選手が転倒し、反則を取ったシーンでした。

私たちのグループでは、判定は、決定的得点機会の阻止（DOGSO）で一致し、その後の主審の対応の話になりました。まず、退場を示す。次に反則を受けた選手がその場で痛んでいる為、すぐにトレーナーを入れる。トレーナーを入れた後に退場者への対応を行う手順が良いのではという結論に至りました。

発表を行なった際に、反則が起きた後ボールが奥の方に流れて川崎フロンターレの選手に繋がりました。このときに、アドバンテージは考えなかったのかという指摘がありました。私自身では、アドバンテージの考えが出なかったのでもっと視野を広く保つためにも、動きの幅を持つことが重要であると感じました。

7/24 第 2 回振り返りミーティング

この研修会では、前半は前回と同様に映像を見て、周囲の方とディスカッションを行い、後半はこの研修会のテーマである Player's Management の研修を受けました。

前半のディスカッションでは、DOGSO なのか SPA(大きなチャンスとなる攻撃の阻止)なのかという映像を見て周囲の方とディスカッションを行い、発表を行いました。私は、DOGSO と考え発表を行うと 8 割の方が SPA という意見になり、討論会を行いました。ここで意見が分かれた部分は、守備側競技者の位置がカバーに入ることができるのかというところでした。私の見解としては、反則が起きなければ、攻撃側競技者はシュートを打つことができ、その瞬間の守備側競技者の位置はシュートコースにいない為、DOGSO であると考えました。

SPA 側の見解としては、反則が起きなくてもスライディングタックルで攻撃側競技者より先にボールに触れる可能性が高いというものでした。また、他の意見として反則が起きる前に守備側競技者を交わすために攻撃側競技者がゴールの外側にボールをコントロールした事によって守備側競技者の位置からカバーできるという意見もありました。正式な見解は、SPA で守備側競技者の位置がカバーできるというものでした。

この研修会で私は、DOGSO と自信をもって判定していましたが、実際には SPA が正しく、誤った見解を持っていました。ただ、試合の中では正しい判定を行わなければなりません。このシーンがもし実際に私が担当する試合で起きていると、選手の人生に左右する可能性がある事を理解しなければなりません。

そのためにも、より判定の精度を上げる必要があるなと感じた研修会でした。

後半の研修では、Player's Management を表現するために必要な事について学びました。これを表現する上で必要なこととして「笛の強弱・笛のタイミング・喜怒哀楽・コミュニケーションをとるのか無視するのか・自ら積極的に対応するのか言われてから反応するのか。」などの選択をしながら行なっていくことが大切になります。ここで必要なのは、何が・なぜ起きているのかの情報収取が大切です。この情報を持った上でどの組み合わせがベストなのかを考えていく必要があります。

まとめとして

・事の軽重を理解して、画一的な対応ではなく、事に応じたマネジメント

・やりすぎなく、弱腰ではなく、柔軟性と対応力に富んだマネジメント

・自分の意思が明確に伝わるマネジメント

上記のまとめをより意識することがより良い Player's Management が実現されるのではないかと学びました。

4）最後に

人生初めての全国大会という舞台に立たせて頂きました。初めての全国大会の舞台ということもあり、最初は緊張をしてしまいましたが、全体を通してたくさんの方とコミュニケーションを取ることができ、サッカー以外の部分でもたくさんの学びがありました。

また、研修会ではたくさん発言をする機会を頂いて、顔を覚えてもらうこともできました。これは、兵庫県サッカー協会で普段から研修会などを開催された中で発言する機会が設けられ、経験を重ねてきたからこそできたことでもあると感じました。

審判員という立場で様々な年齢や他地域の方と出会えたことは、私の今後の人生にとってとても大事な財産となりました。試合を通して、この舞台で自信を持って判定ができたことは私自身のメンタリティの部分で成長でき、テクニカルなところでもたくさんの引き出しができました。今後は、この研修で学んだことを関西や兵庫県の試合で表現できるように精進していこうと思います。

第 5 回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18) 参加報告書

兵庫県 2 級審判員 西嶋咲音

-目次-

1.はじめに
2.大会概要
3.事前研修会
4.担当試合＆各日の研修会
5.大会全体を振り返って

1.はじめに

7 月 31 日より群馬県で開催されました、第 5 回日本クラブユース女子サッカー大会の参加報告をさせていただきます。関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に日頃からのサポートを感謝申し上げるとともに、猛暑の中、大会を円滑に運営していただいた全ての大会関係者の皆様に感謝申し上げます。

2.大会概要

日程：2023 年 7 月 31 日(月)～8 月 7 日(月)
開催地：群馬県
出場チーム：全国 9 地域の代表 16 チーム。4 チームずつグループに分けグループステージを行い、各グループ上位 2 チームがノックアウトステージに進出。

3.事前研修会

-第 1 回目-
・大会テーマの確認
「サッカー競技規則の精神を理解し、試合を正しく進める」
→ゲームの流れを読んだレフェリング、ゲーム運営（負傷者対応、時間管理)、FK マネジメント
・競技規則の精神について
・競技規則改正について

-第 2 回目-

・FK マネジメントについて

→「主審のプレゼンス」、あらゆる気付き、伝え方

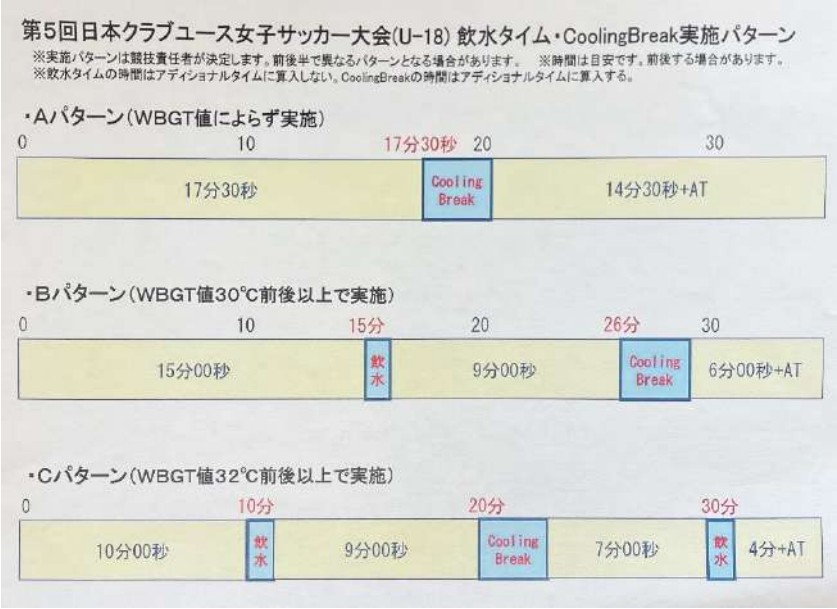
・映像ディスカッション

→事象のどの部分を見るのか、**いつ見るのか**

-大会前日-

・大会要項の確認

・暑熱対策について



4.担当試合＆各日の研修会

【大会初日(7/31)】

-担当試合-

グループリーグ第 1 節　**マイナビ仙台　11-0　伊賀 FC くノ一三重**

主審：西嶋咲音（関西）　副審：大森宗吾氏（関東）、新井恵子氏（関東）

第 4 審：小林淳史氏（運営 staff）

Ins：浜田章治氏

　大会初日から最高気温 45℃に達した時間帯もあり、暑熱対策で前後半 3 回ずつの飲水タイム・クーリングブレイクが設けられるなど、かなりイレギュラーな試合となりました。試合の中で良かった点は、PA 内まで走り込み、一つ一つ納得感のある判定を下せたこと、FK の際、クイックの保証だけでなく場所にも考慮しセレモニー実施有無の判断を素早く行えたことでした。課題は、ボールに背を向けてターンをする時があったこと、オフサイドフ

ラッグの気付きが遅いことが挙げられました。課題の後者に関しては常に副審を視野に入れておく動きであったり、その動きが出来なかった時には必ず振り返って副審とアイコンタクトを取るなどの改善が必要だと学びました。

-研修会-
・アディショナルタイムについて（主審とうまく連携が取れない場合）
・ペアで試合の振り返りを共有し、相手の課題等を全員に向けて発表（他己紹介的に）

【大会 2 日目(8/1)】
-担当試合-
グループリーグ第 2 節　**日テレ・メニーナ　8-0　北海道リラ・コンサドーレ**
主審：西嶋咲音（関西）　副審：大森宗吾氏（関東）、溝尾昌也氏（関東）
第 4 審：永井晧平氏（運営 staff）
Ins：野原敬司氏

この日は雷の影響が心配されましたが気温は前日よりも落ち着いており、クーリングブレイクも 1 回ずつというスムーズなゲームが行われました。前日に課題として挙がったオフサイドフラッグの見落としを無くし、ターンの向きもかなり修正することが出来ました。新たに出た課題としてはジェスチャーが伝わりにくいという点です。ベンチから遠いサイドで PK かどうか見極めるシーンがあり、自分は良いポジショニングでノーファウルと判断しましたが、ベンチから少し声が上がりました。良い場所で見極めたのであれば尚更、試合を見ている人全員に分かりやすいジェスチャーをすることが、主審としての信頼感にも繋がると学びました。他にも、点差がついてワンサイドゲームになっている時こそ、何が出来るか、何に注意しなければいけないかを考えながら試合を進めていけたら、と思いました。

【休息日(8/2)】
-ミーティング-
・大会初日からの共有事項について
・退場者が出た場合の想定
→どこまで出すのか、誰が対応するのか、試合後事情聴取の場所や聴取者

【大会 3 日目(8/3)】
-担当試合-
グループリーグ第 3 節　**ヴィアマテラス宮崎　0-1　ソルフィオーレ FC 作陽**
主審：西嶋咲音（関西）　副審：中島省吾氏（関東）、平瀬まさみ氏（関東）
第 4 審：田中隆史氏（運営 staff）

Ins：石川正樹氏

1.2 日目の試合とは違い点差も力差も拮抗する試合となり、ゲーム展開が予測しづらい所がありました。主導権を持って試合を進めたことは良かったですが、ファウルを繰り返さないようにさせる工夫がもっと必要だったのでは、と感じました。プレーの予測が難しい時にポジショニングが PA 幅内に収まりがちだったので、女子のこの年代のゲームスピードであれば思い切って外から見て、そこから争点へのアプローチを試みても良かったのでは、と考えるきっかけにもなりました。
またこの試合では終了間際に GK に警告を出すシーンがありました。抜け出した攻撃側選手と 1 対 1 の場面で、攻撃側選手がゴールと距離のある位置からシュートを打った後、ＧＫが遅れてチャレンジをし、転倒させたためラフプレーで警告としました。抜け出しを狙っている選手がいることは把握していたので、ボールが通った後の起こり得る事象を頭で整理しておくことができ、その結果判断も冷静に下すことが出来ました。

-研修会-
・審判員の役目について
→大会の成功・充実に寄与する
・ポジショニングについて
→パスに対する意図の感じ方、プレーの優先順位、ステップの使い方

【大会 4 日目(8/4)】
-担当試合-
準々決勝　**日テレ・メニーナ　2（PK5-3）2　浦和レッズレディースユース**
主審：中本早紀氏（関西）　副審：西嶋咲音（関西）、荒木明氏（関東）
第 4 審：阿久津弘美氏（関東）
Ins：田渕量也氏

この大会初めての副審を担当し、ノックアウトステージということもあって一層熱が入るゲームを審判団としてどうコントロールしていくかが 4 人の共通意識としてありました。主審が同じ兵庫県の中本氏だったため、アイコンタクトやコミュニケーションの部分では同県の良さが出ていたのではないかと思っています。一方で自身の課題として挙がったのは、主審のサポートをどれだけ出来ていたかという点です。ラインキープなど副審の基本的な役割の他、主審に対して必要なサポートを必要なタイミングで行うのも副審としての大事な役割であることを再認識しました。また国際副審である中本氏から、全てにおいて素早くシグナルをする必要はなく、それをすると返ってリスクになることもある、というアドバイスを頂き、自分のシグナルが見ている人にどういう印象を与えているのか考えるきっかけになり

ました。

5.大会全体を振り返って

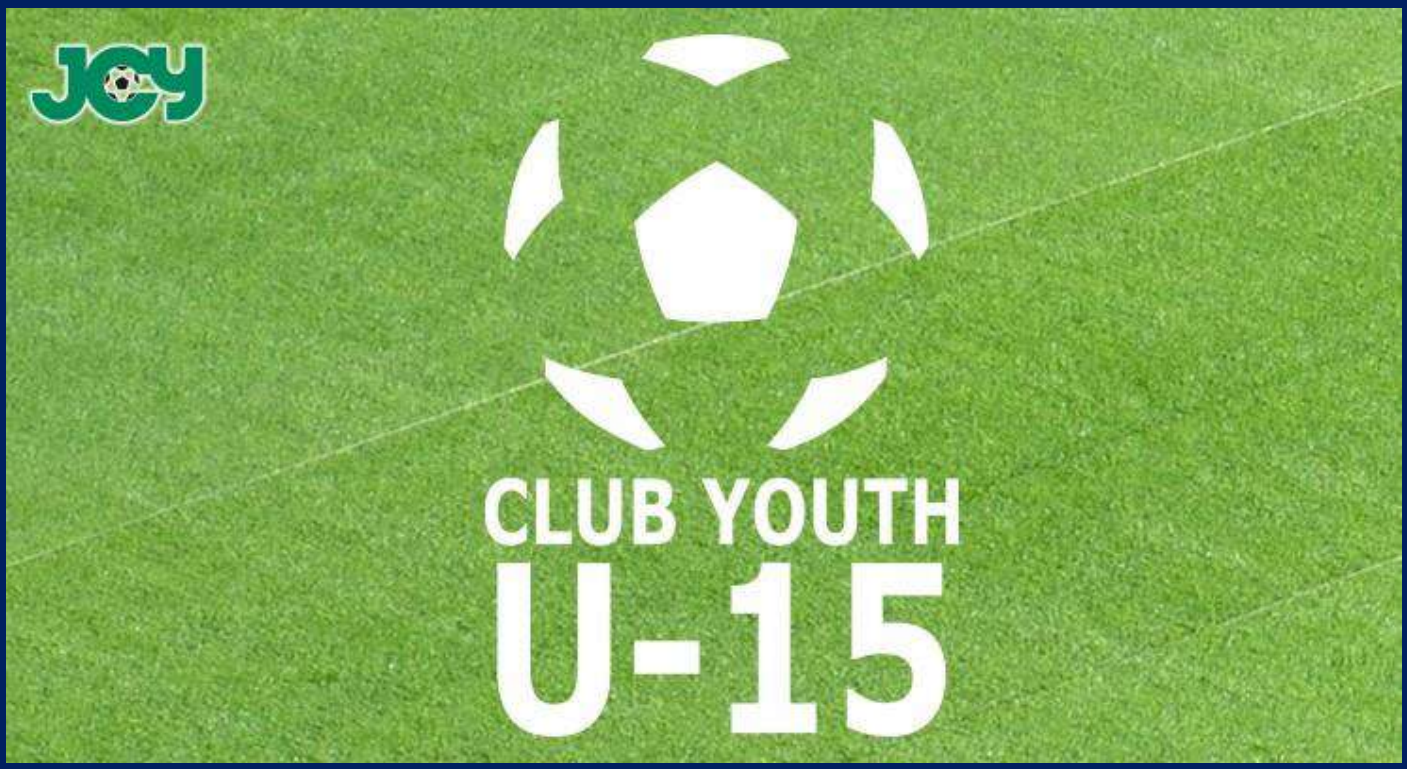
　昨年に引き続き今年もこのクラブユースに参加させていただき、自分の成長を感じる所もあれば新たな課題の発見もあり、自分の地域を離れ普段とは違う方々に囲まれて大会を過ごすことの出来る有難みを改めて実感しました。今大会で出来たことを男子のゲームや違う年代のゲームでも発揮することが大切であり、課題と一つ一つ向き合いながら今後の試合に繋げていきたいと思います。またこの貴重な経験で得たことを、関西で共に活動している女子審判員に自分の活動を通して発信していけるよう、これからも精進して参ります。
今後とも、何卒ご指導ご鞭 撻のほど宜しくお願いいたします。
　以上で大会参加報告を終わらせていただきます。最後になりましたが、今回派遣を承認 して下さった関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に改めて感謝申し上げます。　ありがとうございました。

【Players’ management のための表現力を高める】

第 38 回　日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

In 北海道(帯広)

関西(兵庫県)サッカー協会所属
サッカー2 級審判員：大本 剛志



私は8月18日(金)～8月21日(月)の期間、北海道で開催された「第38回　日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会に2級強化審判員として参加させて頂きました。
まず初めに、今回このような機会をいただいた日本サッカー協会、関西サッカー協会、大会運営で色々とお世話になった北海道サッカー協会関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。

【大会参加前に】
大会参加者の審判員やインストラクターのベクトルを合わせる為に、大会開始期間前に Zoom にてオンライン研修会が2回行われました。

★第一回8月1日(火)20:00~21:30
〇本大会チーフインストラクター田邊氏より挨拶
〇本大会審判マネジャー名木氏より挨拶及び大会に向けて概要説明
本大会のテーマ【Players’ management のための表現力を高める】
＜期待したい効果・結果＞
⇒必要とされるときに、スピード、加速を伴った動き出しと、全体的な運動量
⇒効果的な表現力
⇒納得ある判定ができるようになる
⇒ベンチ(監督・役員等)への対応
〇本大会庶務担当多田氏の事務連絡

☆第二回8月8日(火)20:00~21:30
〇本日の研修テーマ【マネジメント(表現力)の引き出しを増やそう】
・状況によるマネジメント
・人に対するマネジメント
・状況＋人へのマネジメント
〇映像を2シーン使用し、グループディスカッション
映像①アドバンテージ後のロールバックについて
⇒ロールバックの伝え方・興奮している競技者に対しての歩み寄り方等
映像②負傷者の対応、味方GKの詰め寄りに対して
⇒GKへの対応方法・カードの出し方等

本研修会を通して、競技者が何に対してアピールを行っているのか？を考え、そのために主審(審判団)がどのように心掛けて対応を行うのか。をグループ及び他グループの意見交換を行いました。

【本大会に参加して＜8月18日～8月21日】
☆8月18日(金)
〇7:00に自宅を出発―大阪(伊丹)空港⇒新千歳空港―新千歳駅⇒帯広駅
〇14:15頃に「ホテルルートイン帯広駅前」に到着
〇17:30夕食
〇19:00全体ミーティング
⇒名木氏より大会注意事項等の変更点を説明
⇒田邊氏より大会に向けての心構え

⇒蒲澤氏より大会テーマについて、おさらい及び深掘り

☆8 月 19 日(土)ラウンド３２

〇7:50 ホテル出発「中札内交流の杜　Ａピッチ」

〇12:30 キックオフ　主審：大本剛志(兵庫県)　副審１：木下博史氏(大阪府)

副審２：森内真司氏(北海道)　第 4 の審判員：高田他愛氏(神奈川県)

インストラクター：谷内浩仁氏

リップエース(関西７)ｖｓＦＣ多摩ジュニアユース(関東２)1 回戦

〇15:40 ホテル到着

〇17:30 夕食

〇19:00 集合研修

〇23:00 就寝

【参加 1 日目】

私自身、本格的に大会が開始致しました。

昨年同様グループステージからではなく、トーナメント形式(ラウンド 32)から参加させて頂きました。

昨年とは違い、前日の夜はゆっくりと寝る事ができ、しっかりと準備を行うことが出来ました。

グループステージとは違い、負けたら終わりの一発勝負。

選手のために何が出来るのか？また、大会テーマである、【Players’ management のための表現力を高める】を意識し、関西では中々ない芝の長さで、恐らくいつも以上に足へ負担がかかる事を想定しながら試合に挑みました。

試合は 0-2 により FC 多摩ジュニアユースが勝利を収めました。

反省会では、インストラクター谷内氏より、「動き出しのタイミング・判定」についてご指導頂きました。

・動き出しのタイミング・・・開くのが遅く次の争点が監視できていない

・判定・・・前半は問題なくゲームをコントロールしていたが、後半より見極めのタイミングが遅れることにより、最終的に双方の競技者がファウルを犯した時に笛が鳴り、ベンチ役員・競技者に不信感が生まれた。

集合研修では、私と同会場で行われた試合について、警告 2 枚目が出たのにも関わらず、退場させる事が出来なかった。原因は主審が他の審判員と記録の確認や情報共有がされておらず、1 枚目の警告について主審以外の審判員は気づけていなかった(4TH はベンチ対応、A1 もベンチ対応、A2 は遠く番号まではわからなかった)

次に自分が担当する試合で起こるかもしれない事を全員が再確認した事象であった。

また、他の試合でマネジメントの改善点事案が多くあった為、グループディスカッションでは「何故、マネジメントが出来なかったか？」をグループで話し合いました。

・若さ(なめられる・経験不足)・自信のなさ(気づき)・注意(その場しのぎ)・根拠がない・余裕のなさ・スキルの無さ(方法がわからない)・サッカーの理解不足等･･･

まず、全員が意識する事として基礎基本を徹底する事。自分本位で行わず、審判員として行わなければならないことを徹底する。そしてチームの状況・競技者の気持ちを理解しながら１つ１つ丁寧に行う。

明日以降、参加している全審判員が一丸となってやり切る事を意識し集合研修は終了しました。

☆8 月 20 日(日)ラウンド１６

〇8:15 ホテル出発「音更町サッカー場　B ピッチ」

〇10:00 キックオフ　主審：坂田純平氏(埼玉県)　副審１：大本剛志(兵庫県)

副審２：高須賀哲平氏(北海道)　第 4 の審判員：岩本駿士氏(北海道)

インストラクター：佐藤光雄氏

ガンバ大阪(関西６)ｖｓFC 愛媛(四国２)２回戦

〇15:40 ホテル到着

〇17:30 夕食

〇19:00 集合研修

〇23:00 就寝

【参加 2 日目】

昨日の集合研修で議題に上がった、記録の確認・情報共有を徹底し、主審や他審判員と協力する事を念頭に置いて、挑みました。また、いつも通り基本的な副審に与えられている事を意識しながら主審の援助が出来るように試合へ入りました。特に大きな事象もなく、終えることが出来ました。

試合は 5-0 でガンバ大阪が勝利を収めました。

反省会では佐藤氏に、wait&see で見極めたオフサイドシーンについてお褒めの言葉を頂きました。

主審の坂田氏には、笛の強弱や笛でのマネジメント。言葉ではなく笛で「ダメな事を伝える」。そのためには競技者の意図や試合の状況を把握していなければならない。と指導を頂きました。

集合研修では、各会場の情報共有や勝ち上がっているチームの情報を共有し、インストラクター佐藤氏より今の 2 級強化審判員の立ち位置や、審判員に対する考え方を講義して頂きました。

☆8 月 21 日(月)準々決勝

〇7:50 ホテル出発「中札内交流の杜　B ピッチ」

〇10:00 キックオフ　主審：大本剛志(兵庫県)　副審１：伴野弘大氏(静岡県)

副審２：高須賀哲平氏(北海道)　第 4 の審判員：木村俊陽氏(愛媛県)

インストラクター：佐藤光雄氏

ソレッソ熊本(九州３)ｖｓサンフレッチェ広島(中国１)準々決勝

〇15:40 ホテル到着―解散

【参加 3 日目】

大会最終日。昨年同様に準々決勝の主審割当を頂きました。

1 回戦での自己評価は悪く、2 級強化審判員 12 名の中でたった 4 名しか担当する事の出来ない準々決勝の割当を頂けたことを嬉しく思うことと共に、責任重大さを割当発表があった前日に痛感しました。

前日は想像以上に不安になり、今まで自分自身が経験したことや学んだことを一度整理し、就寝しました。

試合開始までは正直不安が続き緊張をしていましたが、整列した際には良い緊張感をもって試合に入る事が出来たと思います。1 つの要因として、今大会参加している 2 級強化審判員と話す事で「大本さんなら大丈夫！」「いつも通りやろう！」「やり切ろう！」「楽しもう！」等々、沢山声をかけて頂き、改めて審判仲間の大切さを実感し

ました。
　試合は 1-0 でソレッソ熊本が勝利を収めました。
　試合終了後インストラクター佐藤氏より、ボディコンタクトの判定基準は一定していたが、ホールディングの判定基準の一貫性が取れなかった。また、今の身長で自分の存在感をいかに出していくのか？より近くで判定を行う・通常より一歩二歩前に動きシグナルを行う等をご指導頂きました。

【総括】
　今回このような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。
　昨年に続き、2 大会連続で日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会に参加させて頂きました。
　また、2 年連続準々決勝の主審を割当頂けたことを、嬉しく思います。
　自分自身の今大会評価はもっと出来た！もっとチャレンジ出来た！と悔しさでいっぱいです。
　ポジティブに考えるのであれば、改めて化けの皮が剥がれ一度初心に戻り一からスタートする。今までは周りに助けられ、たまたま上手くいっていた。と割り切る！ことが出来れば良いのですが･･･
　ただ今大会に参加したからこそ、気付けた部分や学べたこと・全国審判員との出会いはたくさんありましたので、大会に選出して頂きました関西サッカー協会関係者の皆様には感謝しております。
　本大会の悔しさを糧に一つ一つの試合を大切に、他審判員と切磋琢磨し活動して参ります。
　引き続き、関西・兵庫県で精進して参りますので、ご指導･ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

以上

2 級強化審判員

インスト含む 2 級強化審判員

第38回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会
参加報告

所属：関西・兵庫県協会
氏名：福田峻平

はじめに

　この度、2023年8月15日より北海道帯広にて開催されました、「第38回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会」に、参加させて頂きましたので、ご報告致します。

　このような大会に推薦していただきました関西サッカー協会・兵庫県サッカー協会の皆様、大会開催期間を通してお世話になりました皆様、そして、大会を開催していただきました全日本クラブユース連盟の皆様に、感謝申し上げます。

大会概要

大会名称：第38回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会
大会期間：2023年8月15日～8月24日
参加期間：2023年8月15日～8月19日

審判チームの大会テーマ

「Players' management のための表現力を高める」

テーマから期待される効果

・必要とされるときに、スピード、加速を伴った動き出しと、全体的な運動量
・効果的な表現力
・納得ある判定ができるようになる
・ベンチ（監督・役員等）への対応

関西の参加審判員

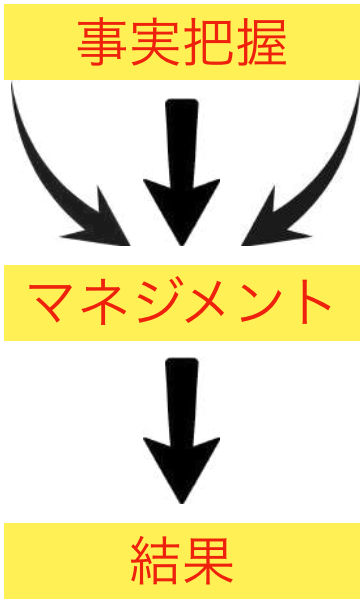
・福田　峻平　　（兵庫県協会）
・大本　剛志　　氏（兵庫県協会）
・中本　早紀　　氏（兵庫県協会）
・川勝　彬史　　氏（大阪府協会）
・大内　隆　　氏（大阪府協会）
・野口　健太郎　氏（大阪府協会）
・木下　博史　　氏（大阪府協会）
・萩尾　麻衣子　氏（大阪府協会）
・兼松　春奈　　氏（大阪府協会）

事前研修①

研修会内容
・大会要項の確認
・大会テーマの確認
・2023/24競技規則の確認
・試合運営について

事前研修②

研修会の目的
・マネジメント（表現力）の引出しを増やす。



マネジメントが必要とされる３つのパターン

マネジメント ＝ 事実に応じてベストを選択

同じ結果にたどり着くまでに様々な方法があるとしたら、
最も効果的な、または共感される方法を取りたい。

マネジメントにおいて、主審として確認が必要なこと
①”何が”起きているか　　②”なぜ”起きているのか
↓
ここで正しく理解した上で、選手への対応が必要。

今大会でチャレンジしていきたいマネジメント
・事の軽重を理解し、画一的な対応でなく、状況に応じたマネジメント
・やり過ぎず、弱腰でもない、柔軟性と対応力に富んだマネジメント
・自分の意思が明確に伝わるマネジメント

【大会１日目（8月15日）】

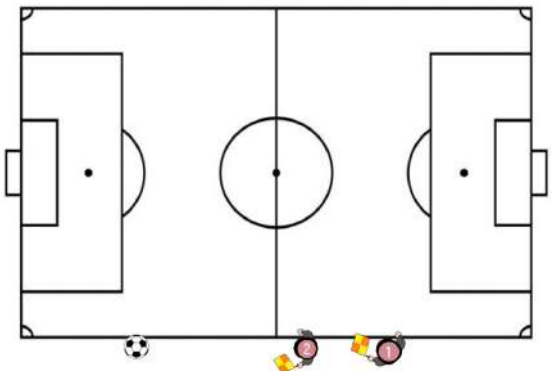
<u>スケジュール</u>
10:00　ヴァンフォーレ甲府 VS 愛媛FC
14:30　FCカナロア VS リップエース
19:00　ミーティング

<u>試合について</u>
ヴァンフォーレ甲府 VS 愛媛FC
　　主　　審　：小山　典晃　氏（愛知県）　　副審１：志村　奎裕　氏（北海道）
　第4の審判員：山口　麗弥　氏（北海道）　　副審２：福田　峻平

FCカナロア VS リップエース
　　主　　審　：籾山　智哉　氏（北海道）　　副審１：山口　麗弥　氏（北海道）
　第4の審判員：伊藤　唯翔　氏（北海道）　　副審２：福田　峻平

インストラクター：田邊　宏司　氏

　大会1日目は副審を２試合担当しました。
　私は２試合を通して、当たり前のことを当たり前にするということに加え、シグナル一つ一つを丁寧に行い、選手や観客などの多くの人が分かりやすいシグナルを意識しました。試合後に田邊氏から、「シグナルの時間・見え方が良いので今後も続けて欲しい」というお言葉をいただき、自分の意思が明確に伝わる表現ができたのではないかと考えます。
　また、効果的な表現や納得ある判定の方法の１つとして、下の図のようなタッチラインの際どいジャッジの際に、①のように体を開きオフサイドラインとタッチラインを両方視野に入れることも重要だが、②のように体を向けて見ることにより、選手は「見てくれている安心感を持ってプレーができるのでは？」というアドバイスをいただきました。この言葉をいただき、試合の局面により使い分けることにより、効果的な力を発揮できるのではないかと感じました。



大会２日目（8月16日）

スケジュール
14:30　川崎フロンターレ生田 VS シーガル広島
19:00　ミーティング

<u>試合について</u>
川崎フロンターレ生田 VS シーガル広島
　　主　　審　：福田　峻平　　副審１：寺西　広太　氏（青森県）
　第4の審判員：井田　敬　氏（北海道）　　副審２：大楠　友和　氏（福岡県）

インストラクター：佐藤　光雄　氏

　大会2日目は主審を１試合担当しました。
　今回、試合を通しての判定精度・状況に応じた柔軟性のあるマネジメントに重きを置き、試合へ挑みました。
　雨の中の試合となりピッチコンディションがかなり悪く、選手が足を滑らしてしまうことが多い試合でしたが、ファウルかノーファウルかを正しく見極め、状況に応じたマネジメントにより、試合を円滑に進めることができたのではないかと考えます。
　佐藤氏からいただいたアドバイスとして大きく2点あります。1点目はアドバンテージについてです。ホールディングをされた攻撃側の選手がチャンスとなるシーンで、私は「続けよう」と声掛けを行いました。この際に、付近の選手のみに対して意思を示すのではなく、適切にアドバンテージを行うことにより、会場全体に意思を示すことができるのではないかとアドバイスをいただきました。
　2点目は、ポジショニングについてです。今回の試合で私は、事前に試合の映像を確認した上で、ポゼッションサッカーが得意なチームと判断し、少し距離を取りながらも角度をつけてプレーの争点を見に行くポジショニングを行いました。結果として、プレー巻き込まれるということはなかったですが、佐藤氏から少し遠いのではという言葉をいただきました。プレーに巻き込まれないために距離を取ることも１つの方法だが、失敗を恐れて距離を取るのではなく、どのように巻き込まれないように抜け出すことができるかなど、挑戦的なポジショニングをした方が、今後自分自身の成長に繋がるのではないかとアドバイスをいただきました。

大会3日目（8月17日）

スケジュール
10:00　三菱養和SC調布 VS ヴァンフォーレ甲府
14:30　名古屋グランパス VS FCカナロア
19:00　ミーティング

試合について
川崎フロンターレ生田 VS シーガル広島
　主　　審　：小野田　伊佐子　氏（静岡県）　　副審１：櫻井　伸也　氏（新潟県）
　第4の審判員：髙橋　陽斗　氏（北海道）　　副審２：福田　峻平

川崎フロンターレ生田 VS シーガル広島
　主　　審　：杉野　杏紗　氏（宮城県）　　副審１：櫻井　伸也　氏（新潟県）
　第4の審判員：瀬賀　秀哉　氏（北海道）　　副審２：福田　峻平

インストラクター：松崎　康弘　氏

大会3日目は副審を２試合担当しました。
今回の２試合は女子１級の小野田氏・杉野氏と担当させていただき、気づいたことが２点あります。１点目は小さな変化に気づき、気遣いができるという点です。試合中に選手が見せた小さな変化に気づき、声掛けを行い選手と良いコミニケーションが取れていたと感じました。
2点目は役割分担が明確という点です。自分はこれができて、これは苦手だからここを助けてほしいなど、明確にしていただいていたことで、試合中に主審の援助がとてもスムーズに行うことができました。
松崎氏からいただいたアドバイスは2点あります。1点目は判定基準についてです。丁寧にファウルを取ることも重要なことだが、基準を下げてしまうと上のレベルの選手にストレスが溜まってしまう。基準をどこに置くかにより、ゲームは大きく変わってしまう重要なものということです。
２つ目は、フットボールコンタクトについてです。フットボールコンタクトが適切に見極めることができなければ、フットボールの魅力が下がってしまいます。フットボールコンタクトを適切に見極めるためには、日々変化する戦術・チームの特徴・選手の特徴などフットボールを知り、見極めるための知識を身につける必要があるというアドバイスをいただきました。

大会４日目（8月19日）

<u>スケジュール</u>
10:00　川崎フロンターレ生田 VS ツエーゲン金沢
12:30　ヴィッセル神戸 VS FC今治

<u>試合について</u>
川崎フロンターレ生田 VS ツエーゲン金沢
　　主　　審　：種市　裕考　氏（青森県）　　副審１：福田　峻平
　第4の審判員：伴野　弘大　氏（静岡県）　　副審２：遠藤　尊流　氏（岩手県）

ヴィッセル神戸 VS FC今治
　　主　　審　：伴野　弘大　氏（静岡県）　　副審１：細山　友司　氏（北海道）
　第4の審判員：福田　峻平　　副審２：遠藤　尊流　氏（岩手県）

インストラクター：田邊　宏司　氏

　大会2日目は、副審１試合・第4の審判員１試合を担当しました。
　決勝トーナメント初戦ということもあり、グループステージと違った空気感に加え、強化２級審判員との初めての試合でもあり、とても学ぶことの多い２試合となりました。
　２試合を通して、私も今後真似して身につけていきたいと考えたことがありました。それは、単語と文章の使い分けです。試合中に選手とコミュニケーションを取る際に、単語と文章では伝わり方が大きく変わります。単語ではシンプルで簡単に伝わるメリットがある反面、受け手によっては強く感じてしまうデメリットも存在します。また、文章では丁寧に伝えることができる一方、試合中に選手が聞いてくれない・聞く余裕がないなどのデメリットが存在します。これらの特徴を捉え、使い分けることは今後マネジメントを行う上で、重要なことになると感じました。
　田邊氏からいただいたアドバイスは2点あります。1点目は、選手が名前で呼ばれることは果たして気持ちがいいことなのかという点です。Ｊリーグなどプロの世界では複数回担当することで、面識が生まれるため効果的になる場合があるが、私たちが初対面で声掛けを行うと選手に戸惑いを生まれさせてしまうのではないかということです。
　2点目はフリーキックマネジメントについてです。フリーキックのクイックスタートを保証することは重要なことですが、点差の開いている試合では効果的ではない可能性があるということです。クイックスタートを保証することで、思わぬトラブルや怪我を招いてしまう可能性があるため、ゲームの状況を読み取り、効果的であるか瞬時に検討する必要があるということです。

大会期間中のミーティングについて

大会期間中はO35・女子１級・U22の３つのグループに分かれ、ミーティングを行いました。各グループで異なるテーマについて話し合い、様々な情報共有を行うことができました。ここでは、各グループで話し合った内容のまとめを記載させていただきます。

O35

O35では、若い審判員を育てていく中で、自分たちには何が必要かということについて話し合いを行いました。話し合いの中で、以下の３つが必要とされることとしてが出ました。

①人間性：若い審判員から本音を引き出すためには、まずは自分自身の人間性を示し、信頼してもらう必要がある。

②インプット&アウトプット：刻一刻と変わる競技規則・サッカーの常識を自分自身がしっかりと吸収し、発信していくことにより、互いに身につけていくことが可能となる。

③リーダーシップ：今まで培ってきた経験値をもとに、審判チームを統率し、自分たちの背中を見せることも重要。

女子１級

女子１級では自分たちの特徴・良い所について話し合いをしました。

話し合いの中で出たものとして、大きく分けて以下の2点あります。

①ダメなものはダメ：悪いプレー・ズルイプレーに対して、気づきしっかりと注意を行うことができる。

②テームの分析：長所である気づきをもとに、チームの特徴・選手の変化を分析し、予測に反映することができている。

U22

U22では２グループに分かれ、私たちが学び、今後何が必要かについて話し合いを行いました。話し合いで出た内容は以下のとおりであり、重要なものから順に考えました。

私の所属した１グループでは、「失敗を恐れず挑戦」することが何より重要であると考えました。そして、挑戦していくためには謙虚・素直に知識を吸収していく必要があると考えました。

また、判定精度が伴わなければ、試合を円滑にコントロールすることができないため、審判員のスキルとして、最も重要になるものだと考えました。判定を行うための説得力あるポジショニング・判定ができたからこそできるマネジメント、判定精度は全てのものに通じる重要な能力であると考えました。

２グループ目では、全ては「感謝」から始まると考えました。試合をするために必要な環境・選手・チーム関係者・大会運営、何ひとつ欠けてはならない存在であり、全てに感謝した上で、試合に挑むことが何より重要であると考えました。

また、次に若いからこそ、謙虚に学び・１試合を全力で走りきり、積極的に挑戦していく必要があると考えました。

次に、打ち合わせの重要性です。試合でトラブルが起こった際に、事前に役割を話し合っているといないとで、結果に大きな差が出てしまいます。審判を行う上で、準備を怠ってはいけないと考えました。

大会を振り返って

今回の大会を通して、O35審判員・女子１級審判員・強化２級審判員から多くのことを得ることができました。O35審判員からは、今まで積み上げてきた経験値による、引き出しの多様性。女子１級審判員からは、小さな変化に気づき行動することができる、思いやりのあるマネジメント。強化２級審判員からは、確かな技術と豊富な経験値による、円滑なゲームマネジメント。大会で得たことの多くが今後の私にとって学んでいく必要があるものでした。

また、今までの私は試合で失敗しないようにと、安全な方法を選ぶ守備的なレフェリングが多かったですが、失敗を恐れず挑戦的なレフェリングも今後増やしていきたいと考えました。失敗を繰り返すことは学んでいない証拠となりますが、失敗から得る知識や経験を活かし、自分自身の成長へと繋げていきたいと考えます。

私が大会を終えて、最も印象に残っている言葉があります。それは「基本を疎かにした時に失敗が起こる」という言葉です。どのようなカテゴリーに所属しようと、基本による地盤が整っていなければ、いずれか積み上げたものが崩壊してしまいます。そのため、基本を忠実に守り、基本を応用に繋げ、今後成長していきたいと考えます。

終わりに

今回、初めての全国大会に参加させていただき、全国の舞台でも通じる自分自身のストロングポイント・まだまだ改善が必要なウィークポイントを明確にすることができました。

大会を通して、全国各地の審判員・インストラクターの方々との交流により、新たな知識や価値観を得ることができました。また、全国各地のチームから多くのサッカーを学ぶことができ、今大会に関わっている全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

大会で過ごした期間、とても実りのある時間を過ごすことができ、今回得た知識・価値観・経験は、今後私の人生の大きな財産になると考えます。この知識や経験を今後の審判員人生に活かしていけるように、日々努力いたします。

改めまして、今回このような大会に推薦していただきました関西サッカー協会・兵庫県サッカー協会の皆様、大会開催期間を通してお世話になりました皆様、そして、大会を開催して頂きました全日本クラブユースサッカー連盟の皆様に、感謝申し上げます。